

また、つくりだす未来。

私たちは社会から必要とされる会社でありつづけるために
過去の経験や実績だけにとらわれず、常に未来の
社会ニーズに応える新たな価値を創造していきます。



グループ会社事業所一覧

資源循環サービス業

㈱レックス SR 本社 / 摂津工場
大阪府摂津市東別府 3-7-2
TEL:06-6349-3830 FAX:06-6340-5568

㈱レックス SR 北港工場
大阪府大阪市此花区北港 2-1-67
TEL: 06-6225-8300 FAX.:06-6225-8301

㈱レックス RF 本社 / 岸和田工場
大阪府岸和田市地藏浜 11-1
TEL:072-438-6434 FAX:072-422-3617

㈱エコプランニング 本社
大阪府摂津市東別府 3-7-2
TEL: 06-6349-3830 FAX:06-6340-5568

㈱エコプランニング 北港リサイクルセンター
大阪府大阪市此花区北港 2-3-24
TEL: 06-6469-8100 FAX:06-6469-8101

RTT ㈱ 本社
大阪府岸和田市地藏浜 11-1
TEL: 072-433-7880 FAX:072-433-7881

リマテック R&D ㈱ 本社
大阪府堺市西区築港新町 4-2-4
TEL: 072-280-0525 FAX:072-280-0526

リマテック九州㈱ 本社
大分県白杵市野津町大字都原字上坪 906
TEL:0974-32-7721 FAX:0974-32-7731

リマテック東北㈱ 本社
岩手県大船渡市赤崎町字亀井田 2-3
TEL :0192-47-3526 FAX : 0192-47-3527

㈱バックキャストテクノロジー総合研究所 本社
東京都港区虎ノ門 1-2-20 第3虎の門電気ビルディング 5F
TEL: 03-5209-2050 FAX:03-3548-8245

㈱マルサン
大阪府吹田市江坂町 3-48-51
TEL: 06-6190-2567 FAX:06-6388-2700

㈱エコリンク 本社
大阪府門真市本町 7-15
TEL: 06-6909-0700 FAX:06-6903-3666

漁業・水産加工業

小島サステナブルフィッシャリーズ㈱ 事業本部
大阪府岸和田市地藏浜町 7-1
TEL:072-438-6414 FAX:072-438-8024



ご挨拶

株式会社レックスは、『お客様から信頼されるパートナーとして、持続可能な社会づくりへの貢献を』というスローガン“Re-Creation for Sustainable Society(持続可能な社会に向けた再創造)”の頭文字から名付けました。

従来行ってきた資源循環サービスのさらなる向上を図るとともに、多様な選択肢の中から、最適な資源循環サービスを提供できるように努めてまいります。

大阪・東京の2拠点を中心とし、全国的にアライアンス企業との信頼関係を築き、新たな企業価値の創造へチャレンジしてまいります。ロゴマークには『失敗を恐れず、新たな価値を創造すべく、挑戦していく。』という強い思いが込められています。これまでの常識に拘らず、ステークホルダーの皆様との共存共栄を図りながらチャレンジしてまいります。

代表取締役社長 塩見 頼彦



循環型社会を形成するには、これまでにない新しい発想が必要でした。そのため、得意分野が異なる会社同士を統合(2020年10月1日レックス・レックスSR・レックスRF経営統合)することで、得意分野の拡充を図り、経営資源やノウハウを共有することによるサービスレベルの向上を実現しました。

また、出身会社の異なる人材が同じ会社で働くことによって、自社活動だけでは体験できなかった多くのことを学び、これまでと違った視点で物事を捉え、課題解決力のスキルアップにも繋がったことで、今まではない新たな資源循環サービスの提供が可能となりました。

会社概要

株式会社レックス(英語表記 Re:CS Co.,Ltd.)

代表者 代表取締役社長 塩見 頼彦
所在地 【本社】大阪府大阪市中央区南船場 1-3-9 プレミアム長堀ビル 6F
TEL: 06-6210-2327 FAX: 06-6210-2328
【支社】東京都港区虎ノ門 1-2-20 第3虎の門電気ビルディング 5F
TEL: 03-3548-8244 FAX: 03-3548-8245

資本金 6,000万円
設立 2016年3月1日
売上高 5,000百万円
従業員数 250名(グループ全体)
会社 URL <https://re-cs.jp>



大阪本社

東京支社

経営理念

循環型社会をリードする
トップコーディネーターに
なる。



持続可能でより豊かな社会を目指す強固なアライアンスを構築し、サーキュラーエコノミーの実現に向けた資源循環インフラを創造する。

1. 相手の言葉に耳を傾け、真摯な姿勢で行動する。
2. 経験と最新の情報や技術等を基に、新たな価値を創造する。
3. 新たな価値創造のための挑戦者であり続ける。

レックスが注力するSDGs10のゴール



先進性

創業当時から『脱炭素』の考えを持ち、固定概念に左右されことなく柔軟な視点で未来を見据えたリサイクルを行っています。



チーム力

レックスグループ全体で同じ価値観を共有し、連携を図ることによって新たなリサイクル手法に挑んでいます。



対応力

近年『リサイクル分野』をとりまく環境は大きく変化しており、その変化に迅速に対応できるように常に情報収集を行っています。



信頼性

地元企業との信頼関係がなければ課題解決できない事業を含め、あらゆる事業活動において、お客様・アライアンス企業との信頼関係を大切にしています。



CONTENTS

会社紹介

- ごあいさつ・・・P2
- 経営理念・・・P3
- グループ会社・・・P4
- レックスの役割・・・P5

事業紹介

- リサイクル事業・・・P6-9, 12-13
- 環境修復事業・・・P10-11
- 収集運搬事業・・・P14
- 研究開発事業・・・P15

取り組み

- OZCaF・・・P16-17
- SDGs・・・P18-19



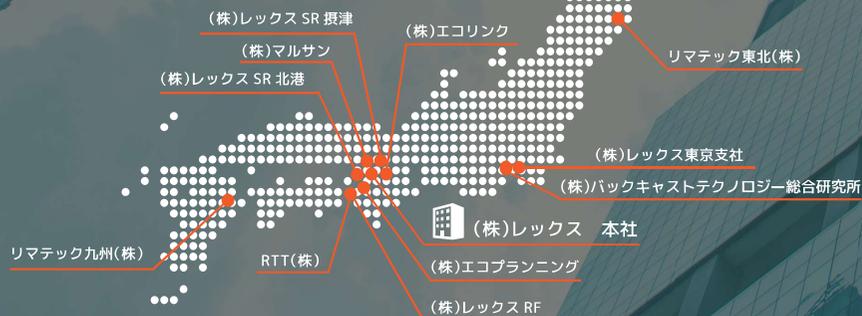
グループ会社の機能と役割

グループ会社が得意分野で効果を最大限発揮できる提案を行います。

当社はグループ会社が得意とするリサイクル施設やノウハウ、広域ネットワーク網を保有していることにより、固形廃棄物や液体廃棄物など幅広い廃棄物の収集運搬～処理まで、レックスグループ及びアライアンス企業で責任をもって対応します。



- より一層お客様に寄り添える立ち位置
- 集約化により効率化し高度化するお客様対応
- 多彩なニーズを一元管理で解決



レックスとは

資源循環における課題解決の情報センターの役割を果たします。

当社では全国に300社を超すネットワークを有し、あらゆる角度からの情報・技術を融合することで資源の可能性を最大限引き出します。お客様の環境負荷低減に繋がるコンサルティングを行うことにより、『循環型社会』の実現に向けた動きを加速させていきます。副生物の使用や環境負荷低減における資源物の販売・製造原価低減・CO₂削減対策にも取り組み、新たなソリューションビジネスを生み出すことで循環型社会を牽引する存在であり続けます。



グループ会社におけるレックスの役割

グループの持続的成長と企業価値向上に努めています。

営業部門、経営部門、イノベーション部門がグループ各社と連携を図り、知識や情報等を集約、取りまとめを行い、総合的に支援・管理を行っています。グループが持つ資源を理解した上で課題を共有することで、グループ各社は自律性を持ち、レックスグループのブランド向上に努めています。





事業紹介 / リサイクル事業 新たなスキーム構築

SCHEME

従来リサイクル処理方法が確立されておらず、埋立処分されていた廃棄物の新たなリサイクル手法の確立と再資源化スキームを構築します。排出された廃棄物に付加価値を与えることにより、再び資源として活用できる点に注目し、当社が排出事業者、加工会社、原料供給会社の架け橋となり、新たな価値を生み出しています。これまで培ってきた経験やノウハウ、アライアンスを活かした『コンサルティング機能』『マッチング機能』を組み合わせ、新たな価値創出に努めています。

CASE 01 : 複数社をコンサルティングすることで廃棄物由来の原料を提供。



CASE 02 : メーカーの品質基準に合った管理を行い、安心してもらえる原料を提供。



CASE 03 : 排出事業者のニーズに合った加工メーカーをマッチングさせることで、排出事業者の新たな原料として生まれ変わらせる。



リサイクル処理方法が確立されていない廃棄物だけでなく、既存のリサイクル手法以外にも、さらに高度なリサイクルを実現するためのスキーム構築も行っています。使用済みPETボトルはシートや繊維といったものにリサイクルされていますが、それらのものは一度リサイクルされた後、焼却処分され、再び同じ商品にリサイクルされることはありません。しかし、当社はPETボトルを再びPETボトルにリサイクルすることができる『Bottle to Bottle』のスキーム作りを成功しました。

このスキームにより新たな石油由来資源を使用せずにPETボトルを製造することができ、CO₂排出量を約56%削減することができます。『Bottle to Bottle』は持続可能な長期的なリサイクルループを実現します。

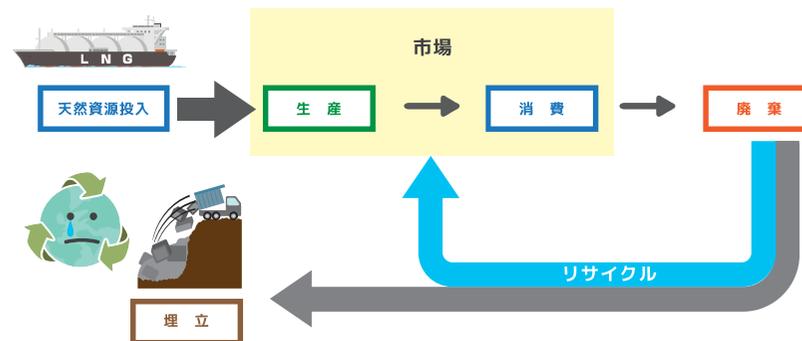


PETボトルリサイクルは異物混入などさまざまな課題がありますが、グループ会社エコプランニングでは高精度選別を実施し、PETボトルリサイクルの阻害要因を除去することで『Bottle to Bottle』実現のサポートを行っています。



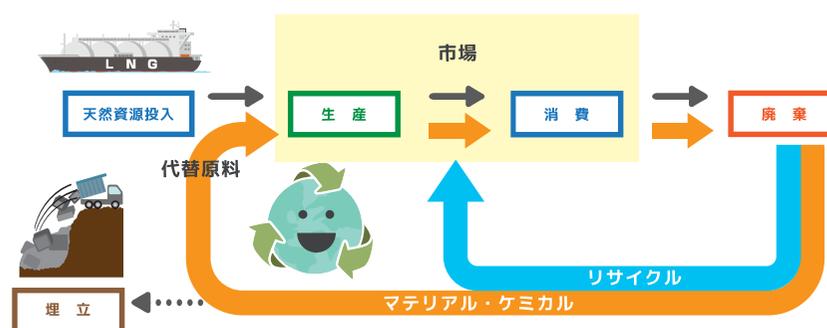
一般的なモノの流れは廃棄物を回収し、リサイクルすることで、再び市場に流通したのち、最終的に埋立処分されている割合が高くなっています。一度きりのリサイクルの場合、新たな商品を製造するために、再び天然資源を使用することとなり、理想とする循環型社会を形成するには不十分です。

一般的なモノの流れ



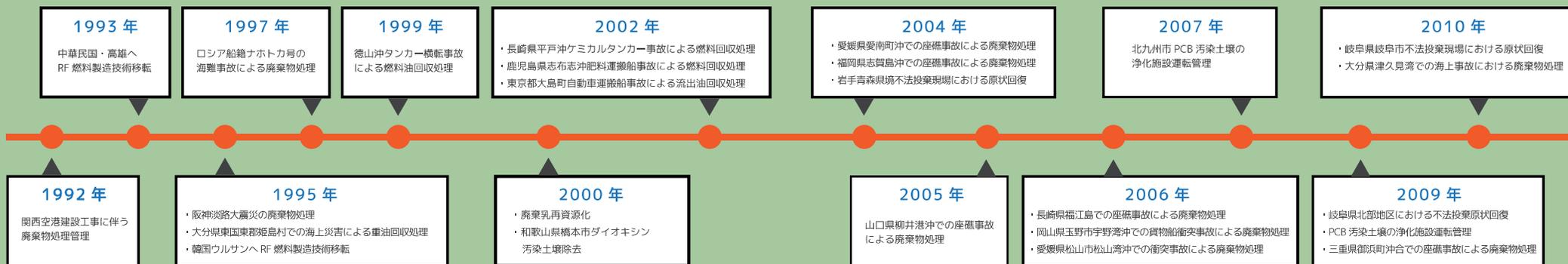
近年、社会の環境に対する意識が変化し、これまでと同様の一度きりのリサイクル手法では、満足されないと感じています。そこで、廃棄物をより高度なリサイクル（マテリアルリサイクル・ケミカルリサイクル）をすることで廃棄物を循環させ、天然資源の使用量を削減することに貢献していきます。当社では、持続可能な長期的なリサイクルループを構築していくことで、『循環型社会』『持続可能な社会』の形成を目指していきます。

目指すべきモノの流れ



全ての廃棄物の可能性を模索し、コンプライアンス管理を含めたリサイクル提案を行うことで、新たな価値を創造していきます。

事業紹介 / 環境修復事業



2011年

東日本大震災

これまで培ってきた経験やノウハウを活かし、震災発生から2週間後には災害廃棄物処理計画書を提出し、地元企業協力体制のもと災害廃棄物の処理・再資源化を行いました。



行政機関の課題

- ①被災地域の情報がわからない
- ②災害廃棄物処理スキームが作れない

支援ポイント

- ①被災地域リアルタイムの情報収集～提供
- ②地元企業を中心とした事業スキーム構築

安全で確実な事業計画作成、不確実要素への柔軟な対応、事業全体のリスク最小化、高精度な選別、運搬の効率化、形状や性状に応じた災害廃棄物の処理・再資源化を行うため、現地に二次選別プラントを設置しました。また、海水をかぶった廃棄物はそのまま処理することが困難なため現地に除塩プラントを設置しました。現地にプラントを設置することにより、今まで以上に効率的で長期的な支援を可能にしました。

除塩プラント



二次選別プラント



当社のミッションである「持続可能でより豊かな社会を目指す強固なアライアンスを構築し、サーキュラーエコノミーの実現に向けた資源循環インフラを創造する」ためには、事業活動に関係する全ての方々から信頼される企業であることが必要です。特に、環境修復事業については、災害発生日域の皆様からの信頼なくして課題解決を行うことはできません。

ある日突然襲ってくる災害に対して、リサイクル事業で日々培ってきた信頼とノウハウを活用し、災害発生日域における地元企業を中心としたスキーム作り、グループ企業やアライアンス企業の強みを活かした災害廃棄物処理計画作成など、被災地の復旧から復興まで安全で確実な対応を心がけて取り組んでいます。



事業紹介 リサイクル事業

株式会社レックスSR 摂津／北港

SR

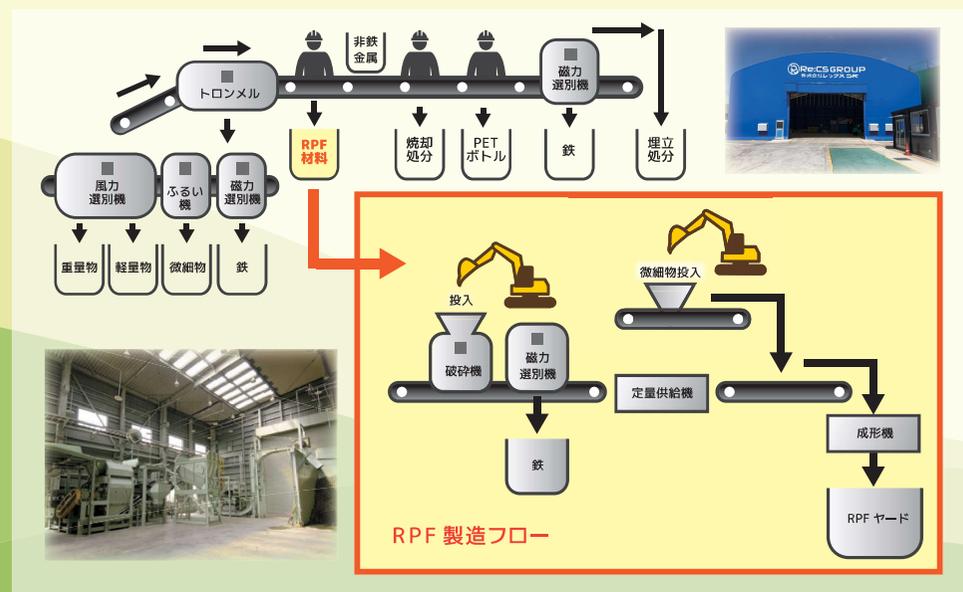
廃棄物を石炭代替燃料として利用することによって「CO₂削減」に貢献します。

複雑化・煩雑化する多種多様な廃棄物も分ければ資源として再利用することが出来ます。『分ければ資源』の考えをもとに機械とオペレーターによる二重の徹底選別により、貴重な資源や材料を確保しています。

レックスSRではリサイクル困難な中間処理物もアライアンス企業を活かし最大限のリサイクルを行い、『循環型社会』の構築に貢献しています。

また、石炭代替燃料に代わる高品質なRPFを製造しており、あらゆる産業の燃料として使用されています。

近年、石炭や化石燃料に代わる新燃料として注目されているRPFは廃棄物として処理されるものを燃料として活用できるため、環境に優しい商品となっています。さらに、RPFは石炭に匹敵する熱量であるにも関わらず、CO₂排出量は石炭と比較して約30%削減することができます。このように高い性能をもち、廃棄物由来の商品として今後さらなる需要の拡大が予想されています。



リサイクル率UP

高精度選別によりRPFを製造し、アライアンス企業へのマテリアル・サーマルリサイクルを可能にしています。



POINT

- 01 石炭代替燃料のRPF出荷量 3,000t/年
- 02 温室効果ガス33%削減(石炭比)
- 03 RPFの灰化率は3分の1削減(石炭比)
- 04 オペレーターと機械の組み合わせによる高精度選別
- 05 中間処理物はアライアンス企業を活かし最大限リサイクル



事業紹介 リサイクル事業

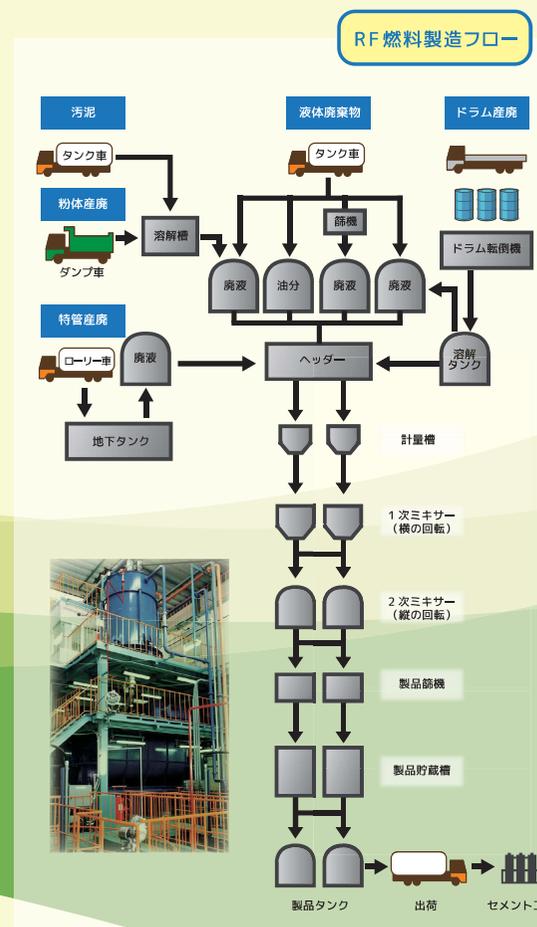
株式会社レックスRF

RF

受け入れた全ての廃棄物を自社設計プラントにて全量リサイクルします。

さまざまな産業から排出される廃油、油泥、汚泥、ばいじん等の廃棄物は従来、埋立処分・焼却処分され、有効活用されてきませんでした。受け入れた廃棄物は独自のミキシング技術、マッチングノウハウによって、安全で確実なリサイクルを行っています。また、特許技術『可塑的チキソトロピー性を有するセメント焼成用補助燃料組成物』によって、固形廃棄物、粉体廃棄物など幅広い廃棄物をRF燃料化することが可能です。

製造されたRF燃料は主に石炭代替燃料としてセメント会社に販売され、石炭と比較してセメント製造時のCO₂排出量を削減することができます。また、RF燃料使用に伴い、発生する焼却灰もセメント原料として利用されるため最終処分が不要です。



従来の処理方法



埋立処分
焼却処分

特許第3039644号

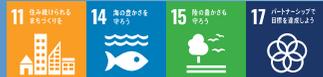
RF燃料 = Reclaiming Fuel (再生された燃料) セメント焼成用補助燃料製造技術開発によりリサイクル可能に。



CERTIFICATE
OF
PATENT

POINT

- 01 石炭代替燃料のRF出荷量 40,000t/年以上
- 02 RF燃料リサイクル率99%
- 03 温室効果ガス抑制90%以上(焼却比)
- 04 独自の特許技術により様々な廃棄物の再資源化が可能
- 05 燃焼・廃水ゼロで二次公害の発生なし



事業紹介 収集運搬事業

株式会社エコプランニング
RTT 株式会社

企業が事業を運営していく上で必ずといって良いほど廃棄物は発生しており、それらを適正に処理するためには適正な運搬をすることが求められています。当社は運搬会社が適正な運搬を行えるように、廃棄物を確認し、情報共有を行っています。

これまで構築してきた物流ネットワーク網を活かし、多種多様な廃棄物を安全に処理会社まで搬入できるよう、日頃から安全教育・意見交換会を実施しています。さらに、安全第一に業務を遂行できるように運行管理・労務管理も徹底しています。

運行管理

運行データの可視化

運行管理者が収集運搬車両の位置情報を把握し、効率的な配車を実現。



労務管理

危険運転を防ぐ

運転時間を管理することにより、重大な事故の原因となる長時間運転を防ぐ。



運行状況を把握するためのシステムを導入することにより、事前に渋滞等に巻き込まれないルートで運行することができます。また、1日2件以上の運搬予定車両が万が一、渋滞に巻き込まれた際は、ドライバーからの連絡なしに事務所で把握することにより、ドライバーは運転業務に集中することができます。さらに、位置情報を把握していることから、別車両の手配をスムーズに行うことができ、その車両に運搬ルート付のメールで指示することができます。お客様の荷物を安心・安全に延滞することなく搬入するために、日頃から細心の注意を払って業務に取り組んでいます。

保有車両

エコプランニング

- ・2t 平パワーゲート車
- ・3t 平パワーゲート車
- ・4t 平パワーゲート車
- ・10t 平車
- ・4t パッカー車
- ・2t パッカー車 (天然ガス)
- ・4t ウィング車
- ・4t アームロール車
- ・5t アームロール車
- ・12t ウィング車

RTT

- ・10t 真空吸引車
- ・10t 強力風力吸引車
- ・10t 危険物ローリー車
- ・17t 真空吸引セミトレーラー車
- ・20t 危険物タンクセミトレーラー車
- ・20t 粉粒体圧送セミトレーラー車

事業紹介 研究開発事業 技術開発実績

リマテック R&D 株式会社

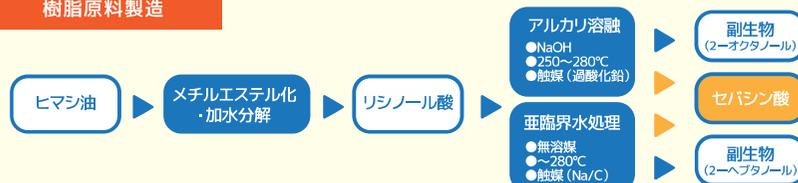


硝酸リサイクル



鉄鋼会社では金属の表面処理を行う際、大量の硝酸廃液を排出しています。そこで、『循環型社会』の観点から廃棄物を循環させるための技術開発に取り組み、硝酸廃液から高濃度硝酸を取り出すことに成功しました。

樹脂原料製造



工業用原料として使用されるヒマシ油から特許取得技術を活用し、セバシン酸を取り出すことで再び重要な工業原料として使用することが出来ます。低温で反応させることができ、アルカリ使用量、アルカリ廃液を削減することに成功しました。

技術開発実績

経済産業省	ベンチプラント建設 「有機塩素系廃溶剤の再資源化」 貿易投資円滑化支援事業 (実証事業・一般案件) 「タイにおける廃棄物サプライチェーン構築に向けたセメント工場への RF 技術を活用した原料製造システムの有効性の実証事業」
農林水産省	ベンチプラントの建設 「食品廃棄物の亜臨界水前処理による高速メタン発酵技術」
環境省	パイロットプラント建設 「有機塩素系廃溶剤の再資源化」 地域新生コンソーシアム開発事業 「廃金属からの回収元素による芳香族塩素廃棄物資源技術の開発」 静脈産業の海外展開促進のための実現可能性調査等支援技術 「タイ王国北部地域におけるセメント工場を核とした一般廃棄物及び産業廃棄物の 3R システムの構築」
堺市	堺市ものづくり新事業チャレンジ支援補助事業 「低含有有機廃棄物対応型亜臨界水-メタン発酵システムの開発」
中小企業庁	ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金に係る「バイオガス分離膜を用いたメタン濃縮設備の開発」 中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業に係る補助事業 「バイオガス発電システム普及のため信頼性向上技術の開発」
JST	研究成果最速展開支援事業 本格研究開発 シーズ育成タイプ 「都市型メタン発酵システム向け亜臨界水利用種菌式可溶化装置開発」
NEDO	研究開発技術シーズ育成調査 「中小規模事業所の食品加工残渣のメタン発酵システム導入調査」 新エネルギーベンチャー技術革新事業 「下水汚泥亜臨界水処理-メタン発酵システムの実用化に向けた技術開発」 国際エネルギー効率化等技術・システム実証事業 (事前調査) 「国際エネルギー消費効率化等技術・システム実証事業 石炭代替燃料の製造・活用に基づく省エネ推進事業」
公益財団法人廃棄物・3R 研究財団	二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 「我が国循環産業の戦略的国際展開による海外での CO ₂ 削減支援事業」

OSAKA ゼロカーボンファウンデーション = OZCaF

OSAKA ゼロカーボンファウンデーションについて

公民連携による持続可能な脱炭素社会の実現を目指しています。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる大阪・関西万博の開催都市として、行政だけでなく、府民や企業、市町村、金融機関、経済界などあらゆるステークホルダーとの連携を広げつつ、2030年のあるべき姿に向け、一人ひとりがSDGsを意識し自発的に行動する「SDGs先進都市」の実現を目指します。

組織



二酸化炭素の削減

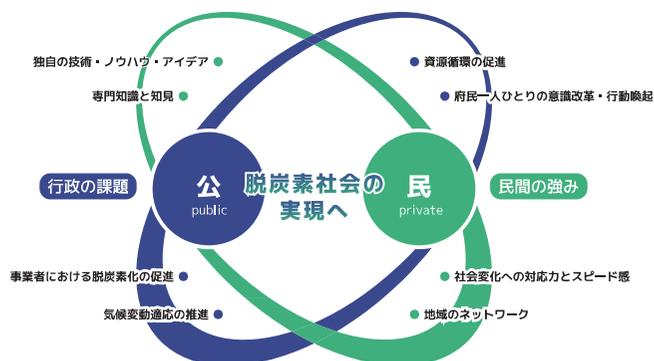
公民連携による地域の活性化

期待する効果

社会的課題の解決

公民連携による企業価値の向上

OZCaFは『大阪ブルー・オーシャン・ビジョン』の実現及び、『2050年CO₂排出量実質ゼロ』を目指した取り組みなど、持続可能な脱炭素社会の推進を様々なステークホルダーと共同し、社会課題の解決に取り組みます。特に脱炭素社会の構築に公民連携で取り組むことを目的として活動を行っています。



OSAKA ゼロカーボンファウンデーションの活動

多様な立場の関係者から構成される OZCaF により大阪が環境先進都市として世界のトップランナーを目指し、取り組んでいます。

主な活動内容



「持続可能な開発目標 (SDGs)」に関する一層野心的で先進的な取り組みを具体化させ、全国へと波及させることにより、我が国が目指す2050年の『脱炭素社会』の実現における先導的な役割を果たすことを目的として活動しています。

OZCaFという公民連携ビジネスプラットフォームを活用して、『公×民』『民×民』の架け橋となり、会員同士の課題解決を促進し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを行っています。



持続可能な社会を
大阪・関西から

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

Re:CS
Re-Creation for Sustainable Society

SDGsの取り組み

レックスグループでは環境分野に携わる企業として『SDGsの企業行動指針』を参考にし、環境に配慮した事業計画を行い、地球温暖化の抑制や脱炭素社会といった環境分野での社会課題を解決する事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。社会に求められる企業であるべく、豊かさを追求しながら地球環境の保護実現に向けて取り組んでいます。



当社では『人材の育成』と『グループ力強化』を重点課題としており、その実現のために、前向きに努力・挑戦した人、チームプレーを実践した人が適正に評価される仕組みを目指した人事制度を導入しています。また、従業員一人ひとりがチームの一員として、『好意と尊敬』をもって認められ、それを実感できる職場を目指し、以下の取り組みを進めています。

各種研修制度

専門性を磨き、幅広いスキルを身につける研修制度を導入しており、上司・部下の相互教育を実施しています。

働き方改革

労働時間の削減や年次有給休暇取得促進、コロナ禍での柔軟な対応等、社員が働きやすい環境づくりを実現しています。

健康経営の推進

社員が健康的な食事を行えるよう、食事補助制度を実施しています。



レックスグループでは『Well-below2°C(年率2.5%以下削減)』にて目標設定を行い、2021年1月にSBT認定を取得しました。scope1・2の温室効果ガスの排出量を2018年の基準年から2030年までに30%削減し、scope3の排出量を測定して削減することを約束しています。



	Scope1	Scope2	TOTAL
レックス本社	39.2	8.2	47.4
レックス RF	99.5	305.7	405.2
レックス SR	440.9	258.4	699.3
レックスグループ全体	579.7	572.3	1151.9